平成２８年度　第１回　千葉県水産振興審議会概要

１　日　時　　平成２９年３月２２日（水）　午後１時３０分から午後３時２０分
２　場　所　　千葉県教育会館　本館６階６０８会議室（千葉市中央区）
３　出席委員数　　９名（石田義廣委員欠席）
４　議題
（１）会長及び副会長の選任について
（２）部会に属すべき委員について
（３）各部会における審議状況について
（４）漁業就業対策について
（５）その他

５　議事内容
　事務局から委員出席者数の報告などがあった。

議題１）会長及び副会長の選任について
　委員からの推薦意見があり、会長坂本委員、副会長山崎委員が選任された。

議題２）部会に属すべき委員について
　部会に属すべき委員として、会長により、栽培漁業・資源管理部会委員として坂本委員・和田委員・山崎委員・柴田委員、生産・販売流通部会として山下委員、海面利用調整部会委員として和田委員が指名された。

議題３）各部会における審議状況について（報告）
　事務局（漁業資源課）が栽培漁業・資源管理部会の審議状況について説明。平成２９年１月３１日に同部会を開催し、「水産生物の種苗の生産、放流及びその育成に関する平成２８年度実績及び平成２９年度計画について」について協議し、原案のとおり了承された旨の報告があった。
　事務局（水産課）が生産・販売流通部会の審議状況について説明。平成２８年１０月２１日に、生鮮水産物として「外房つりきんめ鯛」など４品目、水産加工品として「金田産一番摘みあま海苔（焼海苔）など４品目及びふるさと品として「天然あわび海女の味噌焼」の１品目を対象に、平成２８年度千葉ブランド水産物として認定要件・認定基準に適合するかの審議を行ったところ、いずれも認定が適当であるとの結論に至った旨の報告があった。
　事務局（水産課）が海面利用調整部会の審議状況について説明。平成２８年６月２７日に、「遊漁のまき餌釣りに係る委員会指示について（協議）」を審議し、全員賛成で議題は可決されたこと、また「千葉県水産振興審議会海面利用調整部会推奨ルールについて（協議）」を審議し、西岬地区の「マダイのオキアミコマセ釣りの期間の変更」等の他、夷隅東部地区の「フグの期間の変更」について、後日確認がとれればこの変更を含めた推奨ルールとすることを付帯決議として議題は全員賛成で可決された旨の報告があった。また、平成２９年１月２６日に、「東京湾横断道路木更津人工島「海ほたる」周辺海域における水産動植物の採捕及び遊漁船業の禁止に係る一都二県連合海区漁業調整委員会指示第１３号の発動について」を審議し、全員賛成で議題は可決された旨の報告があった。

議長）事務局（担当課）の説明に対し、委員からの質問を求める。
山崎副会長）「千葉県水産振興審議会海面利用調整部会推奨ルール」について、夷隅東部地区のフグの期間が変更になっているとのことだが、資料にあるチラシの記載は変更になっているのか。
事務局（水産課）推奨ルールとするための手続きが整っていることが確認されたので、変更している。資料のチラシも変更したものを記載している。

議題４）千葉県海苔販売促進基本計画について（報告）
議長）県の説明に対し、委員からの質問・意見を求める。
佐久間委員）外国産の産地表示について、おにぎりはノリの産地表示がされるようになったが、巻物についても、千葉県産、国産でも良いがきちんと産地表示がされるようしていただきたい。
県）巻物等、ノリを使った製品への表示について、いただいた意見を参考に今後検討していきたい。
鈴木委員）外国人観光客へのインバウンド消費は、今、どれ位出ているのか。
県）千葉県にもある程度の外国人来訪者はあるが、オリンピックを控えて従来とどれ位増えたか等の統計的な資料が手元にない。
金丸委員）共販価格がこれだけ下がっているが、質が悪くて下がっているのか、それとも販売ルートやブランド化が出来ていないから下がっているのか、どう分析しているのか。
県）まず、需要動向に大きく違いが出ており、従来では贈答用や家庭用の消費が中心であったのが、今現在の需要動向ではコンビニのおにぎり等、外食、中食産業用の需要が増えており、ノリ全体の価格が下がっている。従来から品質が下がっている訳ではなく、高いノリの消費が下がり価格全体が下振れし、それにつられて高いノリの価格も下がったものと考えている。
金丸委員）千葉県は下がっているが、全国は下がっていない。全国的な傾向なら理解できるが、今の説明では、わからない。
佐久間委員）今年の価格は、日本全国でも高い方である。下物も平均単価１００円を割っていない。今日現在の価格的に満足できるものとなっている。
県）高いノリは贈答用であるとか、家庭用でも高級なものであるが、１２月のお歳暮の品目の多様化等によりノリを贈答用とされる方が少なくなったと、その一番の煽りを受けたのが高いノリを出荷していた千葉県であった。贈答用に回っていた千葉県の高いノリの需要が少なくなり、１１％から７％まで減少してしまい、価格低下の一番の影響を受けたのが千葉県であったと考えている。
金丸委員）値段が違うのは、質ではないか。需要・供給で価格降下はよくわかるが、普通は、単価が安いものが多くなるのは、質が落ちていると考える。ただ、質はすごく良いものでも、需要・供給で単価が下がるであれば、問題は販売ルートをどう確保するのかである。キャッチフレーズやＰＲ、ブランド化は非常に大事である。しかし、１０円と３０円では大きな差である。これは品質ではないのか。そこが、今の説明ではわからない。
県）３０円の割合は少ないと思うが、１５円よりも高い層の１５年の１１％が２５年には７％に減っており、高いノリを購入していた層がこのようなノリを買わなくなったので、値段が下がったと考えている。
議長）この資料には枚数の変化が入っていない。
県）枚数は、近年の千葉県のノリの場合、減少している。この中で、単価が低下している。
議長）全国はどうか。
県）全国はそんなに変わっていないと思う。例えば、今まで贈答用として購入していた方が１００いる

とすると、それが６０になってしまい、残りの４０が他の用途に回ることで単価が下落したと、私共は考えている。

佐久間委員）平成２５年までの話をされているが、現在、千円を下回るものはない。これから色々努力をしていただきたい。

金丸委員）安いものを減らせば良いのではないか。それがブランドじゃないのかと思う。単価が上がっているというが、それは良いものが上がっているのではないか。全国でも贈答用が減っているのではないか。

県）元々、千葉県は首都圏に位置しているので、贈答用の割合が全国に比べ高かった。その中で贈答用の需要が減り、一番の影響を受けたのが千葉県であった。全国では元々贈答用の割合が少なかったのであまり影響を受けなかった。

議長）委員の皆さんから出された意見等を参考にしていただきたい。

議題５）アサリの資源増大に対する取組について（報告）

議長）県の説明に対し、委員からの質問・意見を求める。

山崎副会長）ノリについてもアサリについても対策を考えるとこのような内容となると思うが、平成２９年度は、具体的にどういった事に力を入れて進めていくのかお聞かせ願いたい。

県）アサリについては、漁協の皆さんとどういった事が出来るのかをお話しし、漁協ごとの資源増大計画を策定している。これに対し、県と関係団体と一緒になってアサリ増産に向けたアイディア出しや必要に応じ一緒に行動し、少しでも資源増産に向けた取組を進めたい。

具体的な事業としては、北部漁場の稚貝を南の方への移殖や、現在も実施しているが水産多面的機能発揮事業による覆砂やカイヤドリウミグモ対策について、予算には限りがあるか昨年よりは力を入れて行うこととしている。また、カイヤドリウミグモについては、効果的に駆除が出来るよう、調査の回数を増やして駆除のタイミングの情報発信を行う等、力を入れていきたいと考えている。

佐久間委員）アサリについては、２３日に関係者会議があるが、うちの単協の対応としましては、竹柵、被覆網、覆砂、稚貝放流等について、場所決め等については県東京湾漁業研究所等の関係各位と一緒になって、現在進行中である。

県）全体的なポイントとして、アサリについては、折れ線グラフで示されているとおり、１９年にカイヤドリウミグモが発生しているが、それ以前から減少してきている。これは他県から種苗を入れながら、資源と漁獲量を維持していたという状況があり、平成１０年代から全国的にアサリが減少し、他県産種苗の入手が難しくなってきたこともあり、全体的に減り気味であったところにカイヤドリウミグモが追い打ちをかけた状況にある。カイヤドリウミグモの発生以降約１０年低迷している状況にあるので、カイヤドリウミグモの被害を軽減することがポイントである。

また、他県産種苗の入手が難しいので、東京湾で発生する稚貝が秋、冬の波浪で減ってしまうことをなるべく少なくし、東京湾で発生した貝を増やしていくことがもう一つのポイントである。

これらを中心に、漁業者が竹柵を設置する等の活動を予算で支援していくことや、地元で稚貝が発生しない場合でも三番瀬等の県内の種苗を活用していくという事で何とか増やしていきたいと考えている。

ノリについては、2 年続いての不作となっているが、秋の気候が暖かく海も同じ状況で、10 月下旬から生産が開始されるが、ここ 2 年は、11 月中はほとんど採れない状況にある年内は贈答用で単価が良いが、それが採れなくなってきている。

それと、農業と同様でノリの生産は全国的に大型化・機械化しているが、千葉県の場合は転換が進んでいない状況にある。また、販売の単価を上げる必要もあるし、温暖化とも関係するが、最近、ノリの魚による食害が目立ってきたことや、沖合水の波及などの課題がある。

そこで県では高水温に強い品種の開発・普及や養殖技術の指導や、加工機器や組合が整備する作業船についての助成を行っている。また、沖合水の影響では栄養塩が足りないのではとの事もあるので、原因の究明と対策や販売対策等を中心に、東京湾のアサリ漁業とノリ養殖業の振興を図ってまいりたい。

山崎副会長）アサリの減少原因は、地区別で違うと思われる。一番よく知っているのは漁業者なので、話をよく聞いて、対応して欲しい。

和田委員）アサリの水揚量の推移のグラフで平成 13 年から 15 年に急速に増えているが、理由は何か。その理由が、アサリ増産対策の参考になると思う。

県）平成 14 年が増えたのは富津地区で増えており、これは潜水器漁業による沖合のアサリの漁獲が増えたものと思われる。平成 15 年は富津地区が引き続き多かったのと、船橋、市川の北部のアサリが増え、2 地区で増えたことで 1 万トンを超えた。平成 16 年は、富津地区は元に戻つたが、北部の漁獲が良かった。これは青潮による影響がなかった翌年、2 年後、3 年後は生き残りのアサリが増えるのでグラフの山ができているが、それ以降は北部のグラフの山も出にくい状況になっている。

鈴木委員）カイヤドリウミグモを何とかする対策はないのか。

県）現時点では漁業者活動により底びき網で駆除するのがベターなやり方だが、駆除に有効な時期を調べ、漁協に情報発信することに力を入れたい。また、それ以外でも有効な駆除の方法の確立について、国の研究機関等とも連携して取り組んでまいりたい。

鈴木委員）資源が減少し、10 年目となるので、もっと有効な方法を開発していただきたい。

議題６）次期漁港漁場整備長期計画について（報告）

議長）県の説明に対し、委員からの質問・意見を求める。

山崎副会長）この計画の中で、風力発電の風車はどう位置付けられているか。

県）重点課題４の漁村の賑わい創設として、再生可能エネルギーの活用が位置づけられている。

山崎副会長）平成 29 年度予算にはこの計画の内容がどのように反映されているか。

県）銚子漁港の次期計画をはじめとし、競争力強化に向けた漁港の機能強化の取組や、従来から行われている防波堤、岸壁整備、浚渫事業、ストックの保全などに重点的に取り組んでまいります。

佐久間委員）重点課題３に大規模自然災害に備えた対応力強化とあるが、富津岬と第一海堡は昔は地続きであったが現在は切れ、水深も深くなっている。波の内湾への流れ込み等で近隣のノリ漁業者等は被害を被っている。何とかならないか。

県）要望はお受けするが、当該場所は、国定公園法の適用を受ける地域であり、砂を投入する等することは難しい状況にある。

議長）要望ということとする。

金丸委員）重点課題の４関連で、今、こちらで一番問題なのは、漁業者の高齢化や、後継者不足であると認識している。ソフト的なもので後継者育成事業などがあれば教えていただきたい。

県）漁業の担い手確保対策として、漁連と連携した求人情報の掲載や、高校生を対象とした水産業インターンシップ、新規就業希望者を対象とした研修や、国の事業で新規就業者準備給付金事業等があるので、これらを活用し、担い手を確保していきたい。また、国では、中核的な漁業者へ新しく船を造

る場合や老朽化した船を改修してさらに能力が高い船にする浜の担い手漁船リース事業を創設し、本県でも漁連等がリース事業体を設立し、今年度から着手している。

直接的な担い手の確保対策と、現在漁業を行っている方が継続できるような漁船対策等を実施し、少しでも漁業の就業者が減らないよう対策を講じていきたい。

金丸委員）館山市の場合は、後継者のための学校があったがそれが無くなってしまった。漁業に魅力が無いなどと言われてしまっており、非常に危機感を持っている。お話しいただいた事業をＰＲいただきたい。

県）安房地域には館山総合高校の海洋科があり、管内の市町村、業界団体、高校、行政で安房・君津地区水産教育振興協議会を組織しており、協議会の中でも関係者が連携して取り組んでいる。今後とも取組の強化により、高校の魅力を増やすことや、地域の水産関係の職についていただくことを推進してまいりたい。

松本委員）我が家も担い手事業で１名来てくれた。東京から来た方だが、厳しい中一生懸命やってくれて 4 年になり、やっと慣れてきた。我が家も主人も年なのでもう 1 名欲しいということでお願いしようかと思っているが、後継者では悩んでいる。

重点課題４の現状と課題で高齢者や女性を含む水産業従事者にとって住みやすく働きやすい漁村づくりを推進する必要とあるが、夷隅東部漁協の女性部は朝市に参加している。朝市は毎週日曜日に開催されており、女性部が月 1 回、他１２名が有志で参加し、「たこめし」とサメを使った「じやじや」を販売している。そこに 70 から 80 歳の高齢者が生きがいをもって参加してくれている。

サメは、前は捨てられていたが、今はサメを活用した地元の料理を販売している。

議長）賑わいの創出ということで、良いことだと思う。

鈴木委員）賑わいの創出と記載があるが、どのようなことを考えているか。

県）都市漁村交流、観光振興として、都市部の方が漁村を訪れ、水産物を食べ、漁業を体験していただくのは重要と考えている。そこで、本県の漁村へ都市部の方が来ていただき、漁協直営食堂や直売所等の施設への助成の実施や、都市部と漁村との交流を促進するためのガイドマップの作製・配付や、地元の市・町と一緒になって来訪を促すイベントの開催を支援する等し、地域の活性化を図ってまいりたい。

鈴木委員）観光に来て帰ってしまうだけではなく、地方の漁業が活性化するような、若い人が漁師やりたいなと思うような施策を考えてもらいたいと思う。新規漁業就業者と新規農業就業者では、農業者への対策の方が優遇されていると思う。何で差がついてしまうのかと思う。

県）農業の方が手厚いとは我々も感じており、農業の対策に追いつていけるよう、国に要望するとともに、実現に向けて努力してまいりたい。

また、県では農林水産業振興計画において、漁業の収益性を高める対策を考えているので、これら対策を皆さんの協力を得ながら実施してまいりたい。

議題７）その他

坂本議長）全体を通して意見を求める。

佐久間委員）要望だが、後継者不足の話が出ていたが、やはり漁がない、稼げないのが良くない。稼げる海にするのにはどうしたら良いか東京湾を例に言えば、ノリ、貝、漁船漁業とある中で全て良くない。なぜ駄目かというと、種々あると思うが、自然に優しい環境づくりをしていただきたい。

陸上では大気汚染等が騒がれながら、野焼きは駄目ですといっているが、海に関してはなく、我々

の生活の雑排水がそのまま海に流れている。工業用排水にしろその他下水処理にしろ、そういうもので東京湾の魚介類が減少しており、中には枯渇してしまったのではとも思われるものも何十種類かある。そういう中でとにかく自然に優しいものを海に流していただきたい、という事である。

こういう会議があると、皆さん大変東京湾の事を憂いていただけるが、元東京都知事が百条委員会で豊洲の地下水はポンプでくみ上げて海に流せばよい等と発言したが、マスメディアはこれに反応せず、海に関して皆さんよく言ってくれるが、実際はこうなのかな、と思ってしまう。

国、県にはリースなどでお世話になっているが、稼げなければ海に出れない、漁がなければ諸経費ばかりかかって稼げない、そうすると立派な船が港に繋ぎっぱなしになってしまう。

とにかく海をきれいに、アサリの餌となるプランクトンも豊富な、豊かな海に東京湾をしてもらいたい。

西の方では紫外線殺菌をやっているということで実際に見せてもらいましたが、如何に自然にやさしいものを海に流すのか、という事である。

（閉会）